

press collective

松:夜とは違う昼の良さを提案しただけで夜を否定したつもりはないんだけど。昼には昼の楽しみ方があるよっていうことを表現したかったんだけどね。

稲:その頃は、自分で変なバイアスをかけていたんじゃないかなと思ってます。でも今は両方の良さがちゃんと理解できたうえで参加できているかな。

楠:今は自然体でやれてんじゃないの? 昼間にミニマル・テクノ掛けても違和感ないし。

稲:それは最近、普通にやってますしね。音楽的には自分のなかでグルッと一周してて、今は激し目な音に戻りつつあります。いわゆる昼間の力を出さないといけないみたいなのはもうなくなりましたね。あと、4カ月周期でやっていると、僕のように糸が切れた風というか、一貫性のない人間にはマイブームが来るんですよ。好きな音の。

真:(同意して頷く)

楠:フムフム。掛ける音が4カ月で変わると。

稲:そのペースが自分にとっては逆に心地良い。

涌:髪型は変わらんけどね。

稲:ずっとスウェット着てますしね。

白:最後に。楠田君はどうですか。

楠:思い返すと10年間は長いけど、変わらんね。

松:楠田君はプレイスタイルもあんまり変わってない。

楠:collectiveは、4カ月に一度来る音楽研究の発表の場みたいなものかなって。

稲:学会であること?

楠:学会。。ウン、☆●○★やな。

皆:(笑)

楠:僕なんかは皆と違ってユーロ・ディスコだけやんか。どんだけ、その枝葉を広げられるかをずーっとやってさ。それは高校の時ぐらいいから、ずっそうやねんけどね。

稲:考え方がずっと学生の時から変わってないですよ。

楠:逆に言うと聴く音楽を広げられなかった。それはちょっとしたコンプレックスでもあるけど。それができへんねんやったら、別のことでっていうのがあって。で、ユーロ・ディスコ。涌井さんとかはたまに良い反応してくれるから、やって面白いなんだけど。「こんな曲もありますよ」という紹介を一人でも多くの人にできるよう、やり続けます。

白:僕は楠田が掛ける音よりも、楠田が書く文章の方が好きやけどな、本質的には。(笑)

楠:(笑)ありがと。では最後に既婚のメンバーから奥さんへ感謝の一言をいただけますか?

皆:(笑)

白:嫁さんはcollectiveを継続することに賛成してくれている。昔「10年経ったら、俺らパーティー止めるわ」って言ったことがあるけど「ずっと続けたら」と言ってくれた。ありがたいなあ。パーティーは僕の精神衛生上、必要なことだと思ってくれていると思う。

涌:僕のところも「(パーティー)やっつけ、やっつけ」と。(照)

楠:お墨付きをもらってる訳ね。

真:白波瀬さんも涌井さんも、奥さん公認なんですよ。

楠:松井君の奥さんは?

松:音楽作る時、没頭し過ぎて僕が担当する家事が滞ってしまうことがよくあるので、そのことは本当にごめんなさい。collectiveには賛同してくれているので、感謝しています。

白:じゃあ次回のpressの特集では、君ら独身3人の将来設計について聞いわ。(笑)

皆:(爆笑)

白:過去の色恋沙汰とそれが何故、成就しなかったかを中心に。

真:長くなりますよー。(笑)

白:ハハハ。それでは、そろそろお開きということで。

皆:(ウム)。— 終わり —

information

10周年記念座談会(後編)いかがでしたか? 細く長く続くcollectiveをこれからもよろしくお願ひします。今回は滋賀のクラブMOVEを拠点に活躍するDJのYAKKIN'をゲストにフィーチャー。豊かな経験に裏打ちされたレンジの広いプレイをお楽しみください。次回collectiveは冬の開催を予定しています。詳細はブログでご確認ください。
<http://blog-collective.blogspot.jp/>

collective10周年座談会 後編

皆さん、こんにちは。collectiveへのご来場、誠にありがとうございます。今回のpress collectiveは前回に引き続き、4月29日に名古屋市内で開きました10周年記念座談会の後編をお送りします。レジデントメンバーkengo matsui(松井健吾)、tawaki(白波瀬達也)、mackiart(渡辺真紀)、yu(稲垣優)、itaru wakui(涌井格)、楠田行展が参加した座談会。前編では、パーティーの誕生から始まり、メンバーが参加に至った経緯、フリーペーパーpress collectiveの存在意義などに触れました。座談会では当然飲酒。酌み交わすお酒もまわり、いよいよクライマックスに。それでは後編をお楽しみ下さい。(以下、kengo matsuiを松、tawakiを白、mackiartを真、yuを稲、itaru wakuiを涌、楠田行展を楠と略します)

白:10年間でできた音楽的な人脈については、特に稲垣の友達とのつながりが大きいね。何回か来てくれている人とは、つながりを持って、ゲストにも呼んでいるし。

楠:白波瀬君はちよくちよくHANKYO(2006年7月、8回目のゲスト)さんともパーティーをやってたしね。

白:BEAR(2013年9月、31回目にゲスト出演)さんともやらせてもらった。

稲:良い関係を保っていますよね。

白:そこをちゃんと温めておくのは大事なことです。

皆:(ウムウム)

楠:各自音楽についてはどう?松井君、過去を振り返って自分のなかで変わったことある?

松:途中からライブするようになったのは大きな変化だね。そもそもDJするためにcollectiveを始めたから。2004年にsonarsound tokyoでイベントでAOKI Takamasaのライブを初めて観て。それが、めっちゃカッコよくて。パソコン使ったのライブでさ。「これからはこれだ!」ってなった。考えてみればパーティー開始からたった1年で、早くもパラダイムシフトしてるという。(笑)

楠:(笑)。松井はプラスチックな人。

松:結構影響されやすくて。DJやってたときは、マイルドなスタイルを打ち出していた。けど、ライブではエッジを効かせた音に変化した。今ではそこから変わってきてる。今後も体力が許すまでライブをやっていきます。関西から東京に転居したことによる環境変化も大きい。collectiveのために大阪に戻るの地の利の面で辛いけど、観たいアーティストのライブが見れる機会も多いし、音楽を学ぶ場所に出会えたことも自分にプラスになった。

楠:涌井さんはどうですか。10年振り返って。

涌:よく(僕みたいなのを)メンバーに加えてもらってね。感謝の一言です。楽しくやらせてもらっています。

松:昔、涌井さんに生意気なことを申し上げたこともあったけど、その器の大きさに笑って許していただいて。

松、涌:(笑)

涌:しかし10年経つとはな一。

楠:ホント10年続くと思いませんでしたよね。

涌:(発足時のオリジナルメンバー松井、涌井、楠田の)3人やったらそう思うよな。丁度良い具合に他のメンバーが加わってくれたし。

真:強制的なものがないから、気分的に楽に参加してます。

白:僕が今までで一番アガった涌井さんのエピソードは、涌井さんが事前「来れない」と言ってた回のこと。

稲:あ〜。

涌:APOLLOさんがゲストとき(2013年2月、29回目)ね。

白:途中で駆けつけて、嬉しそうにレコードを掛けてさ。(笑)

楠:(笑)「掛けませんか!」と。

白:この人DJやるのがホント楽しいんやな一って。それが印象的。

涌:当初楠田君と掛け合いもよくやった。予期せぬ展開が起きることも多くて楽しかった。

楠:というか涌井さんは乱入プレイの常連やん。「挑戦者現る」って感じの(笑)。掛け合いでは、変な曲多く掛けてごめんなさい。

涌:難しい球(曲)を放ってくるから難儀したよ。

楠:ハハハ。しかもそれワザとやってるという。(笑)

楠:10年振り返って白波瀬君はいかがでしょう?

白:僕はDJにもともと興味がなかったんよ。特に4つ打ちのダンス・ミュージックは関心がなかったんだけど、collectiveに参加するようになって圧倒的に好きになった。

楠:僕は学生時代、白波瀬に感じていたことがある。白波瀬は12インチを否定的に見ているのかなって。でも今、メンバーのなかで一番12インチを買う量が多いのは白波瀬でしょ。

白:ウン。兎にも角にも12インチは増えたよ。

楠:ですよね。

松:僕は逆に12インチを買う量が減ったなあ。

白:学生時代はレコードよりCDを多く買ってたし、アルバム派だった。12インチはお金も凄く掛かるから。学生時代から考えれば経済的に余裕が出てきたからかもしれないけどね。アナログが凄く好きになったのは大転換だね。自分のなかで間違いなく好きな音があって、それがこの10年の間で定まったのも嬉しいことです。

涌:そういや白波瀬君は昔、曲順決めてきてたやん。ママやな〜と思って。

白:それはDJの経験がなくて展開をその場で作れなかったから。家で仕込んで、この流れがいいかなと思って。でもそれは1年くらいで終わって、今は状況に応じて変えたりしてる。バックアップバックでやったときにDJの面白さを感じた。DJの楽しさはcollectiveで教えてもらった。そのことは感謝だね。自分でもハウスをこんなに好きになると思わなかったし。あとBPMを合わせられるようになったことは素朴に嬉しいわ。(笑)

楠:(笑)未だに俺はBPM合わんけどね(笑)。真紀ちゃんはどう?振り返ってみて。

真:私は徐々にDJする機会が減ってきてるんです。夜がしんどいこともあるし。クラブに行く回数も減ってきてるなかで「collectiveだけは特別」って思いがあります。それは楽だから。最近、新譜を掛けたとき、皆に喜んでもらえることが嬉しいですね。他のメンバーはあんまり新譜を買わないだろうから、「ヨシ。collectiveでやるときは皆がまだ聴いたことがないレコードを持って行こう」って。古いのは皆に教えてもらって、新しいのは私がって。レコードとかデータを問わずに掛けていきたいですね。

楠:稲垣君、どうですか。

稲:う〜ん。(長考に入る)

松:僕は稲垣がcollectiveを楽しんでやってくれているのかと一時期思っていた。

楠:(田原総一郎的に)それ聞きたい。

稲:自分なりに、このパーティーをどう消化したら良いだろうかと、参加当初思っていました。「夜やっていることを昼間にやっただけやろ」という感覚も正直ありましたね。

涌:激しくやりたかったということ?

稲:ディープ目なものを聴き始めた頃なので、ハードかどうかは問題ではないんですが、ハウスに傾倒していた時で。友達も夜のパーティーを精力的にやっってた頃でもありまして。

楠:僕はその頃、松井君に「昼の良さを伝えるときは、僕たちが夜を否定的に見ていると(稲垣に)誤解されないように言葉には配慮した方が良いでしょう」と言ってた覚えがある。